

..... 編集後記

◆ まだ残暑が続いているのかと思うほど温かい秋が続いていましたが、ようやくシベリアからの冬将軍も到来し、今月からは寒くなるようです。酷暑の夏の後には暖冬なのでしょうか？ 大地震への備えの重要性が叫ばれる中、マンションやホテルの強度偽装事件が発覚、「震度5で倒壊の恐れ」、一体どうなっているのでしょうか。産総研のあるつくばは地震多発の地、あのマンションがつくばにあったら、と思うとぞっとします。

◆ さて、今月の地質ニュースは「モロッコの地質」・「中国の地球化学」と海外の紹介が2つ、「相馬の砂と砂浜」・「白河地域の鉱物資源」・「九州の地球科学情報」と国内の話題が3つ、そして「立山砂防博物館」・「根室市資料館」の2つの博物館の紹介という多彩な内容になりました。

◆ まず蟹江氏他の皆さんはアフリカ大陸北西端の国モロッコの地質とその一画から産出する豊富な古生代生物の化石やその産状を口絵写真も合わせて、紹介していただきました。ミネラルショーでよく見かけるモロッコ産の三葉虫や巻貝の化石の故郷は、こんな所だったんですね。小笠原氏は「中国における地化学探査と地球化学図」と題して、中国地質学の一端の近況を紹介していただきました。この分野でも豊富な人材を使っただけの急速な進歩が見られるようです。

◆ 須藤氏は阿武隈山地北東側にある白砂青松の地「福島県相馬地区」の海浜が危機に瀕する様子を紹

介、人と浜のつき合い方の再検討を訴えています。小村氏他の皆さんは、同じ阿武隈山地の南西部、白河地区の鉱物資源を紹介されています。貝化石の飼料用としての採掘・利用、戦後各地で行われていましたが、まだ残っていたんですね。地域的にはそれが成立する経済的基盤があるのでしょうか？ 茂野氏は九州地方を例に自作した「地球科学アトラス」を紹介されました。さまざまな情報が行き交う中で、どのような情報をどう整理し活用するか？ 一つの方向を示されています。

◆ 菊川氏が紹介された「立山カルデラ砂防博物館」は美しい「立山黒部アルペンルート」の裏山で繰り広げられてきた人と土砂災害の壮絶な戦いの歴史を紹介した博物館。砂防体験に雪上観察会という楽しい催しが行われているようです。猪熊・添田氏は地域に密着した小さな博物館「根室市歴史と自然の資料館」を紹介されました。根室に行くことがあったら是非訪ねてみたいものです。

◆ 大災害で暮れた昨年へ続き、今年も地震・アスベスト・耐震強度偽装問題と自然災害・人災ともに多い年でしたが、残り1ヶ月、何か良いニュースがほしいものです。

◆ 訂正とお詫び：本誌11月号・6ページ表題ふりがな、「とりかたやま」(誤)を「とりがたやま」に訂正し、お詫び申し上げます。

(須藤定久)

地質ニュース編集委員会

委員長：須藤定久

副委員長：吉田朋弘

委員：高木哲一・丸山 正・高橋裕平・

光畑裕司・七山 太

連絡先：地質調査総合センター

地質ニュース編集委員会事務局

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1

Tel. 029-861-3754

Fax. 029-861-3746

地質ニュース	第616号	2005年	12月号
	定価 ¥785 (本体価格 ¥748) 千実費		
2005年12月1日	発行		
編集	産業技術総合研究所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073		
	Tel. (03) 3265-0951 Fax. (03) 3265-0952		
	http://www.jitsugyo-koho.co.jp		
	E-mail: jk@jitsugyo-koho.co.jp		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		

© 2005 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターに常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ